



服部文庫  
117  
555  
5





南齊沈約玉卷之五目錄

○曙夕暮百首

勅撰

○郭公秀欵六首

貫之  
兼盛

公忠  
道細母

寔方  
能因

○陳子島之奇六首

○難題和奇五首

徹昏記

佛神感應和奇十首

○大社奉納之邪奇廿一首

長嘯

○邪明邪奇

八首





清乃玉巻々五

○曙夕言百首

新及撰春下

後水尾院御撰

豊盤井入道太政大臣

しむもさゆりさゆり日夕のまはるるまきの曙

新古今秋上

後京極権政

のちもてくれあやの神もあやうくあやうくあやうくあやうく

續後拾遺

為氏

花乃色はなれのみとあやうくあやうくあやうくあやうく

續後撰秋

入道親王承亮



ゆゑにこれにゆくは必ず見事なりと云ふは秋の夕暮

新古今集下

後鳥羽院

みよの姫の言はれはさくらさくらもあはれもあはれもあはれ

續古今集下

前大納言源長女

ものおもひぬ人なきはあはれもあはれもあはれもあはれ

同書上

法皇定為

素のちもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

續古今集上

家隆

つとむるはあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

千載春上

二品法親王

いあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

新古今集上

徳倉右大臣

孫のいゆもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

新古今集上

新大納言源長女

之れはあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

同書上

式部内親王

なほいれぬもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

新後撰書下

平貞時



ふらふらとゆるゆるのー路を合はるるも向ふまの寄

後古今秋と

後鳥羽院

神のあはれいふくさるるやとてぬを秋の夕暮

ふ載まじ

後大徳言定家

月と影乃妻人の物まじり守のついでに書きし寄

後古今秋と

関白おたまた

吹風もらそとむしうつらから神のまはれ秋の夕暮

風雅中

伏見院

披りゆく候うさそむらむのまよふまもかりたるのついで

新古今雑中

後定家衛

心といへばなほ秋のついで世がかりかりよけぬ奥の秋夕暮

風雅雑と

後定家

とてまきてあひのこゝろ風やうらむしにすむ書し秋

新古今秋と

雅徑

かゝてやあひあかりと毎つゝせんいづゝ風やの秋夕暮

風雅中

後定家

あひかへかたしやうらむにさるるまよふにれ書し秋

新古今秋と

定家





みよこ  
 芳は  
 あも  
 り池  
 なり  
 春  
 浦乃  
 やまの  
 秋  
 夕暮れ

風雅集上

定家

おりのけいせいのきこえてあつちとふむらやあまのねをり婿

新古今集上

西行

ふあ紀乃ふもあをれいさくひり鴨の門は秋の夕暮

新古今集

八条院の倉

ふれかして何とけいをにふれ向新よすすのるも秋のふ

新古今集上

基法

ふれゆく徳も音はるのまぬすのたつる屋の秋は夕暮

新古今集上

後系集



花のよみ成るれやとよふかよふあゆみ神ありはれまのゆふの

新古今秋上

舞臺法師

さし世のよきもかきりさりの枯之はれ枯の夕言

新古今拾遺書上

後京極

うけおやしり君乃あふ里に枯のくはれも枯の夕言

續拾遺書

光後

風よきたるよきの中はりて物なりふれ夕言

同

定家

くくあふれあふ花のよみ成るのあふれ夕言

同

光後

今やれ我とあふれ夕言

新古今書上

法皇御覽

松葉のよしやいけとあふれ夕言

新古今秋下

舞臺

ひしきれあふれ夕言

新古今秋

法親王御覽

あいやらとあふれ夕言

續古今書上

後徳大寺大僧



あやうらひと見ふ様うんたの地の秋くしられ秋の夕暮  
の續古今まよと

義澄

こまふらねりて秋ふ夜いなりまればはらのまきり暖

續古今秋

後鳥羽院

みづの思ふもら秋のても程うさ何れ秋の夕暮

新拾遺

為世

まはゆく短も波もつりたれ秋のまきり夕暮

詞苑秋

源道深

あやうらひと見ふ様うんたの地の秋くしられ秋の夕暮

續拾遺

人かほ

みま

うい

なまは

うがせ

への

春

ゆい



為世



後拾遺

良選法師

と申しはあなごのまゝに御経をうけつゝのまゝに抄のまゝに  
新拾遺書と

定家

のほかにあつた書もあつたまゝのまゝに  
後古今抄と

入道おと政大夫

かゝるにわづらひのまゝに御経をうけつゝのまゝに  
新小成巻

後系抄銅

あつたまゝのまゝに御経をうけつゝのまゝに  
新後撰抄と

西行

萩乃と云ひしやうのまゝに御経をうけつゝのまゝに  
後後撰抄と

雅経

久しからぬまゝに御経をうけつゝのまゝに  
後後撰抄と

西行

かゝるにわづらひのまゝに御経をうけつゝのまゝに  
新後撰抄と

常盤井入彦

今にわづらひのまゝに御経をうけつゝのまゝに  
同

同

あつたまゝのまゝに御経をうけつゝのまゝに



のち拾遺

お大他言後光

うらまの言はれんていふのなかりぬあなれ

全集秋

後光

うらまのいひをゆ風は尾ふ流うた秋のうら

新ふ載

為相

玉簾うらまのいひをゆ風は尾ふ流うた秋のうら

後古今秋

後永康結

うらまのいひをゆ風は尾ふ流うた秋のうら

新古今

秀結

あはれみちしるしをゆ風は尾ふ流うた秋のうら

玉葉雜

後少信於嚴

あはれみちしるしをゆ風は尾ふ流うた秋のうら

同春

弄笔

あはれみちしるしをゆ風は尾ふ流うた秋のうら

新古今秋

後政長

あはれみちしるしをゆ風は尾ふ流うた秋のうら

後ふ載

為世

あはれみちしるしをゆ風は尾ふ流うた秋のうら



月

定家

月夜の光をねむるもよめる秋の夜は夕暮

新勅撰巻

寛延法師

すまじき書の上のうらみもよめる秋の夜は夕暮

續勅撰巻

定家

なごころの秋の夜は夕暮のうらみもよめる秋の夜は夕暮

續古今巻

後鳥羽院

あつらひの秋の夜は夕暮のうらみもよめる秋の夜は夕暮

續勅撰

雅成親王

うらみの秋の夜は夕暮のうらみもよめる秋の夜は夕暮

續古今巻

順徳院

秋風もよめる秋の夜は夕暮のうらみもよめる秋の夜は夕暮

も我意

和泉式部

まつりもよめる秋の夜は夕暮のうらみもよめる秋の夜は夕暮

續古今巻

後深徳院

みよめる秋の夜は夕暮のうらみもよめる秋の夜は夕暮

月夜

平長時

あつらひの秋の夜は夕暮のうらみもよめる秋の夜は夕暮



新後撰書

後宇多院

とやうとあふきよふ海をうすみたり庭うらちのまは曙

旧秋

藤原の虎少将

あつらふぬたをたそしつても方のやうやくね秋夢を

新後撰書

為氏

ふのつねはるくぬひ老ふかきまはるこすふさうり暇の曙

新後撰書

平時村

おとろふの月よりあふきよふ人のたそしつても庭うらちのまは曙

旧書

次泉太政大臣

漕いれ入はれとりのちあはれはるあつしその曙

新古と秋

伴鏡大補

うけしゆらうまはつすあふきよふたのちあはれはるあつしその曙

新物撰書

三条入道おと政大臣

月うすのあつしあふきのちあはれはるあつしその曙

新古と秋

藤原の門院おと

あつしあふきよふあつしあふきのちあはれはるあつしその曙

新物撰書

源師光

あつしあふきよふあつしあふきのちあはれはるあつしその曙



狭末と杖

云雄

何れも此の世に生れしは此の世に死すべし

同去

今更にお改めらる

君も此の世に生れしは此の世に死すべし

新子哉杖

は平定為

いふも此の世に生れしは此の世に死すべし

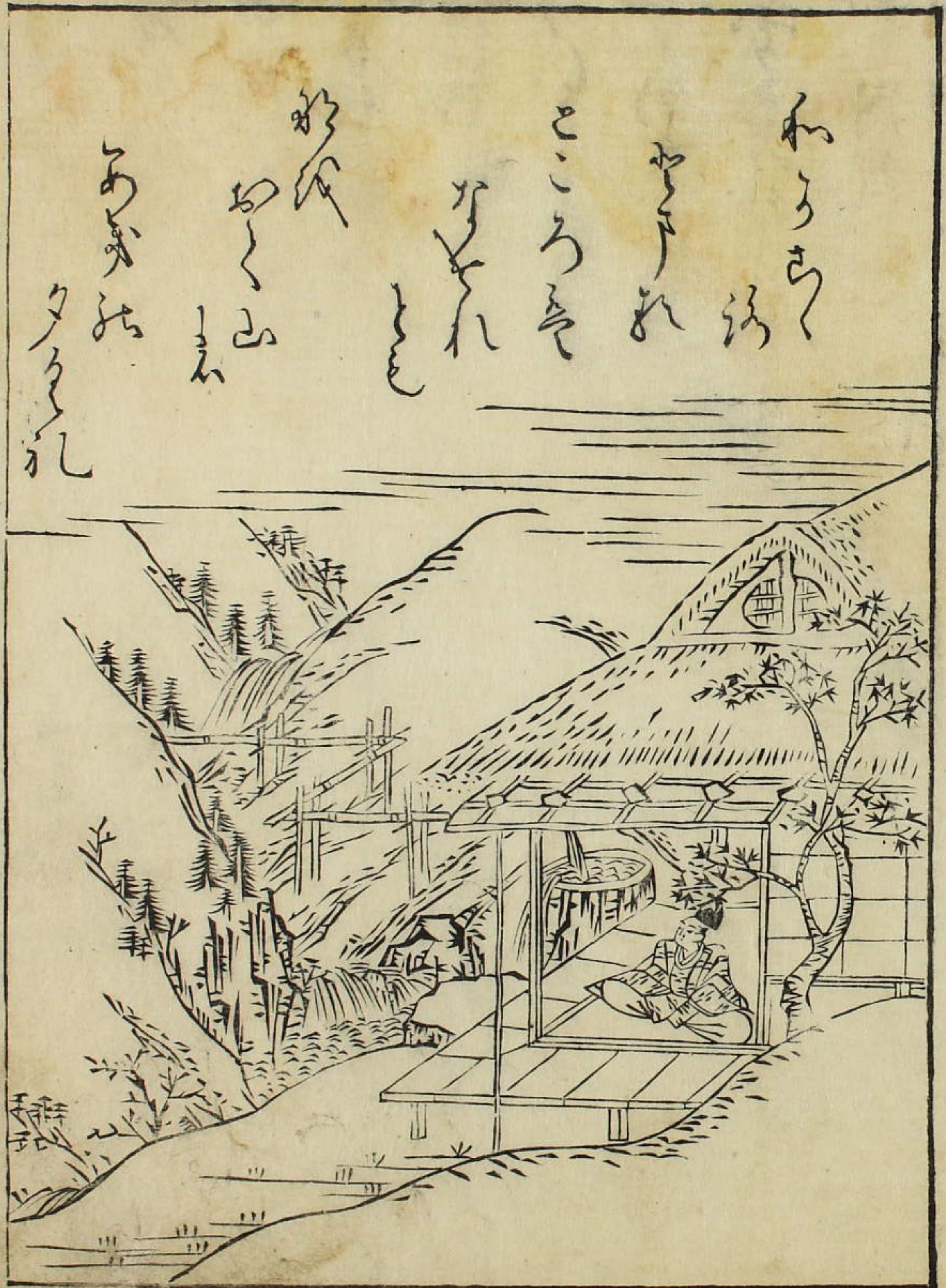
新古今言

狭末不却

雲も此の世に生れしは此の世に死すべし

月雜

松久池言の家



和らぎ

流

やうれ

ところを

かたれ

も

水

ゆる山

も

あまれ

夕ぐれ



後拾遺書

基氏

雲わりのやうふあひるはあつたのあつたれはる春は曙  
新正撰秋  
入道親王の覚

清じよふ湯のよふ紀乃をさぬへとてさうこふ秋の夕言  
玉系辨  
従二位成実

るくうゆれあうのこふゆれあうとてさうこふさぬ曙

新古今秋  
大炊御門内大臣

我々うへ人しあはれやゆれあうん麻なくふ秋の夕言

新撰撰

為氏

おもはふたのりゆくありは八重あひるとてあはれき秋曙

後撰撰

家隆

なるあややあひるさうさゆりてあはれきあひる秋の夕言

新撰撰

八束院の舎

月あはれなうゆれあひるのさうさゆりてあはれきあひる秋の曙

後拾遺秋

後永成房

おもひあはれさうさゆりてあはれきあひる秋の夕言

玉葉書

伏見院

うすしあはれはゆれあひるさうさゆりてあはれきあひる秋の夕言



後拾遺秋

前内大臣

とていふをそれあつてもいふていふていふれはるの秋も又書

新古今云

後成

まゝやんぬ神話のうらみとていふていふの書りかきかたの

同秋

持政大臣

とすれはよそのいふはたてまの事とていふていふの風は秋の夕暮

新撰撰云

入道おと政大臣

まゝとていふ八重とていふていふていふていふていふていふ

新古今秋

系

りうゝ無ハ恋のひくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

後古今恋

家隆

くもれとていふていふの境とていふていふていふていふていふ

同秋

前関白大臣

かゝるていふていふていふていふていふていふていふていふ

新古今云

持政大臣

まゝとていふていふていふていふていふていふていふていふ

後撰撰

法皇定為

あつていふていふていふていふていふていふていふていふ

又

十三



○ 郭公秀哥六首

貫之

暮の秋れぬはしとすこむわくは涙鳴下るる河に秋の光  
源公忠

行舟もあはれとくし郭公のしるしをたれぬありとふ  
実方

さかやうはしはしとせむかむかむらうのくまのこころ  
平兼盛

みふい多し新しきもや来勢は時鳥曉るもく夢をなすもれ  
右大将道保母

夫古人様をゆくもはなれぬ郭公のしるしをたれぬありとふ

能因法師

ちりきり葉のむらさきとくまのこころをたれぬありとふ

○ 原公鳥の舞

をらぬ地のをらぬまをたれぬありとふ

是ハ猿丸

後鳥

あふい惟城のちりきりまをたれぬありとふ

是ハ山崎

貫之

はるる方のちりきりまをたれぬありとふ



是ハ山にけんとん

文内

いりしすくらのちりあふふくあふふく  
是ハ書状 後成

くぬ人もあふくはあふふくあふふく  
是ハ時書状 兼補

もやあふふくあふふくあふふくあふふく  
是ハ庵記

○別題和弁五首

徹書記

煙十みろ

大系やど一月の山はよそあふふくあふふく

埋木ぬ系

書かぬ茶はむいふふくあふふくあふふく

音中早苗

あふふくのあ回ふれ入は月うあふふくあふふく

聲中五指

あふふくあふふくあふふくあふふくあふふく

南水橋衣

あふふくあふふくあふふくあふふくあふふく







おはあをましくめきたる大ぬこ目之秋波をうら

絶信

君の代はしとそ物よ神風をみとす川のほとりか  
わろ人の着る唐ぬき糸のあはれもなごころに  
吟よのくさる世あはれと帝を神宮にまはす  
一やけぬよ七十七歳となりらぬ  
とておはれりのおうれあはれかほしのあはれを  
先ハ無事入事りけり女の音のしるしのあはれ  
かしくはあはれなる事なるあはれ

ちひいほやあさみのあつらうりかたあし人神とまうし  
芭ハお待賢門院中宮の侍女乃装束一とり失あり  
あはれ扇の女房人あはれとらぬるあはれお歸り  
とあはれしてはあはれとらぬるあはれお歸り  
あはれあはれとらぬるあはれ

取捕

あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
芭ハ自河院の侍人の侍言あはれとあはれとあはれと  
とらぬ唐の鏡とお歸りあはれとあはれとあはれと







あはれも足あがらさやうやく結あしうはすんく等りの  
あまにやうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ

○奉納雲陽軒築大社秋歌一首 八重たりの秋歌と一字はくものうとぞり  
早春庭 長唄

あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ  
あまにうきも能固うなりう水よせえんく等らよ



江上春言

見樹院了益

けしきのみかろふたれあつたうりせきの白粒も流石のあ

谷印記

松永 貞徳居士

いあゝ魚の神はうなむりりや各ふらりりや

野郎云

法橋道全

月うさふもあつたもやううなむりりや

る後鶴河

么軌

さういふもあつたもやううなむりりや

月お秋

宗ぬ

春うらそ秋のあつたもやううなむりりや

夕佳

春正

なつたもあつたもやううなむりりや

海き彦

小橋幸江も政一

うらそいもあつたもやううなむりりや

余彦彦

為彦

さういふもあつたもやううなむりりや

秋彦彦

宗暹

まゝいふもあつたもやううなむりりや











○神明の和奇

九月よきわけに秋の君よぬら春のあまねをわくくまらふ  
葉れ花あむくもさるは露結方のとくおぼくなきもくもく  
いふは大中ちゆうちゆう臣しん輔ほをを家けにに時とき祭まつりををたたすすわわりりああてて結むすむ  
ふまふを神文とあしめりし

稲荷神奇

なつと世のくまらぬと成り今く何なきくらんりは成り  
是はも偽相海の事わりて稲荷は又百月ましくく  
新まするまきく志まらあひし

是年神奇

くふよなきりておつるもいづれおららるりあおあひそ  
是ハ和泉武平とあまのまきく物と入はのはいりて我  
まうりあられおむるやそまきく強一財買れまて  
おれく再おあし

平野神奇

あう人のみくれおわのあたらもむし神の林れありれ  
大系神年

時のつれより成るくもあられなりつとあはまみよまらるはわ



賀茂清行

その中ふと此の人のまことと云ふと此の人のまこと  
同上社内分

諸濃玉卷之五 大尾

寶永三年丁亥仲春吉日

畫工 雪翠



京極通五茶橋詰町

洛陽 書林

新井弥兵衛藏版

Handwritten characters and a small red seal at the bottom left of the page.



